



白桜小だより

平成 28年度 12月号
中野区立白桜小学校
校長 宇賀神 佳子
平成 28年 12月 1日発行

チャレンジ精神

副校長 藤原 留美子

「チャレンジ精神」、宝塚歌劇団を先月退団した星組トップスター^{ほくしょうかいり}北翔海莉さんは、退団会見で大事にしてきたことを問われて、こう話されました。続けて「最初から、出来ないと思うのではなく、自分の限界や上限を決めないで、やればやっただけの結果がでるということ、自分の体を通して皆に伝えたかった。」とも。

先月4日の研究発表会には、312名の参会者をお迎えして、子どもたちの生き生きと学習する姿を観ていただくことができました。「Let's enjoy English!」を研究主題として、外国語活動の研究を始めて2年になります。本校は、決して英語の堪能な教員ばかりではありません。本校に着任して初めて外国語活動の授業を行う学級担任が約4割、今までALTまかせの授業を行ってきた教員もいます。毎年新規採用教員の着任がある中で、今年度も新規採用教員1名、期限付教員2名、産育休代替教員2名が新たに加わりました。

英語に苦手意識を抱く教員たちでしたが、「子どもが英語に自ら関わろうとする授業」を作ることを通して、教員は自信をもって児童に向き合うことができるようになりました。

【教員の感想；外国語活動の研究を行って】

- 英語の授業をすること、指導案を作ること、人前で英語を話すことがとても不安でしたが、英語の授業をすることが好きになりました。授業を作ることが好きになりました。
- どうしたら子どもが楽しめるのか、どうしたら自分が最終ゴールを見据えて授業できるのかを常に考えながら英語に向き合うことができた。
- 楽しく授業することの基本が、英語の授業にはある。英語の授業を通して、楽しく学ばせる、教材やICT活用等の工夫を入れることをもう一度考えさせられた。児童の表現する・伝えたり伝えられたりする喜びが、外国語活動で顕著に見られてうれしかった。
- 英語の授業を考えるのが楽しくなりました。アクティビティーや発音方法など工夫1つで子どもたちの意欲がすごく変わることができたので、とても良かったです。

「外国語活動の研究を行うことで、自分自身に変化はありましたか。」と教員にアンケートをとりました。65%の教員が「とても あった」、35%の教員が「まあまあ あった」と答えました。「あまりなかった、まったくなかった」は0でした。教員自身が英語に深く関わりながら研究を進めてきたことが分かります。この根底にあったのは、「やってみなければ分からないよ」のチャレンジ精神です。

さて、来たる16・17日は、学芸会が実施されます。どの学年も台本が完成し、いよいよ役決め、練習が始まります。台詞に命を吹き込み、指先までその役になりきることで、子どもたちは時空を超えて劇中に入り込むことができます。舞台の上だけでなく、ギャラリーから光を届ける照明係、劇の世界へと誘う舞台係、進行係、そして幕間係・児童管理係にと6年生の子どもたちが役を担います。17日の保護者・地域・来賓の皆様の鑑賞日には、是非、本校体育館においでいただき、すてきな学芸会を、どうぞご一緒につくりましょう。ご来校をお待ちしております。